

様式1〔申し合わせ事項〕 【委員会、全協：共通様式】

令和4年8月12日

東員町議会

議長 三宅耕三様

東員町議会

議員 大谷勝治

研 修 報 告 書

研修期間	令和4年8月 2日(火) 3日(水)【2日間】
研修(視察)先	1日目 近江八幡市 2日目 京都産業大学
目的(テーマ等)	地下水の活用 トリックアートを用いた横断歩道
資料添付の有無	有 ・ 無

※ 研修概要、内容、所感などは、次ページに記入すること。

様式 1 [申し合わせ事項] :【委員会、全協：共通様式】

[氏名： 大 谷 勝 治]

研修概要、

(地下水の活用)

近江八幡市は 1624 年以前から八幡市西の粘土層の各戸への飲料水の供給と防火用水の常設化のために古式水道を町に設置しました。現在は姿を消しましたが、1か所のみ維持されています。

近江八幡市コミュニティエリア整備事業について

コミュニティエリア整備は①小学校②コミュニティセンター③放課後児童クラブを一体的に整備を進めた④防災の拠点として司令塔として効率よく機能する。学区住民1割が3日間避難生活を送る事が出来る。④まちづくりの拠点とする。コミュニティエリア整備について桐原・岡山・金田・馬淵の4か所の整備事を行ないました。

内容

金田コミュニティエリア防災機能強化について

近江八幡市総合政策部まちづくり協働課

1995年(平成7年)阪神淡路大震災により、地域の避難場所の確保が必須だとの認識から、コミュニティセンターと小学校の体育館、教室を避難施設として使用できるように一体的に整備しました。平成23年に発生した東日本大震災の教訓にコミュニティセンターを学区の防災拠点と位置付けました。

金田コミュニティセンターは、金剛寺町の湧き水があり、湧水を利用した様々な取り組みが行われています。水質検査を行い災害時の飲み水に利用する、ホテルの再生事業、防災(初期消火)、学校教育連帯水との関わり学習など、地域活動の一環として活動をしています。自噴していた湧水は地下水位の低下のため現在は揚水ポンプを使用しています。

★市の防災計画から考える必要な機能について

①避難する想定人数は学区の約10パーセントの1500人で小学校並びにコミュニティセンターに避難所を確保しています。

②生活に必要な最低限の飲料水を確保しています。(3ℓ/人日×1500人×3日=13,000ℓ)

③生活に必要な最低限の雑用水(トイレ洗浄水)を確保しています。(30ℓ/人日×1,500=45,000ℓ/人日)

④生活排水の一時貯留槽を設けています。

②～④対応のために150mの井戸(水量は毎時4t)をほり、小学校及

- びコミュニティセンターの平時の飲料水や雑用水としても活用します。
- ⑤居住のための電源確保をしています。
 - ⑥食事の調理への対応をしています。
 - ⑦コミュニティセンターが地域の防災司令室となるように機能整備しています。
 - ⑧初期対応用の非常食等の備品については順次整備をしています。

所感

コミュニティエリア金田コミュニティセンターは150mの深井戸から水を揚水して安全な飲料水として使用しています。地震時に浅井戸より影響がなく水量の変動が少ない為、緊急時の飲料水確保に適しています。

ここで使用されている地下水膜ろ過システムは熊本地震に使われたプラントと同じシステムを採用しています。災害に備えてライフラインである水道水は二条化をすることによって断水リスクを軽減できます。緊急時の飲料水確保の為の揚水は浅井戸ではなく地震に強い深井戸を採用すべきと思います。そして今は、地下水膜ろ過システムが良いと思いますが、技術は日進月歩なので今後の開発に期待します。又金剛寺町の湧水は粘土層に囲まれた砂利の層蛇砂川にも近い小さな涵養地が地下には広がっていると聞きしました。涵養地が地下に有る恵まれた地域だと思いました。

以上

(トリックアートを用いた横断歩道)

概要

大学ゼミ対抗プロジェクト ポリス&カレッジ in KYOTO 2022
に令和2年度最優秀賞に選ばれたトリックアート横断歩道について京都産業大学で説明を聴きました。そして亀岡市立千代川小学校の通学路を見学しました。

内容

大学と連携し、各大学ゼミで「高齢運転者の交通事故防止対策」を研究テーマに設定（実効性の高いアイデア・実現可能なアイデア）

所感

現地を見学して思ったことは、歩道が明確化してあるとのことでしたが実際は写真のようには明確ではなかったです。ただ、普通の横断歩道よりは目立っているので、交通事故の被害から守ることが少しは出来ると思います。交通安全対策のために今後も色々なアイデアを取り入れられたら良いと思います。

以上